

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

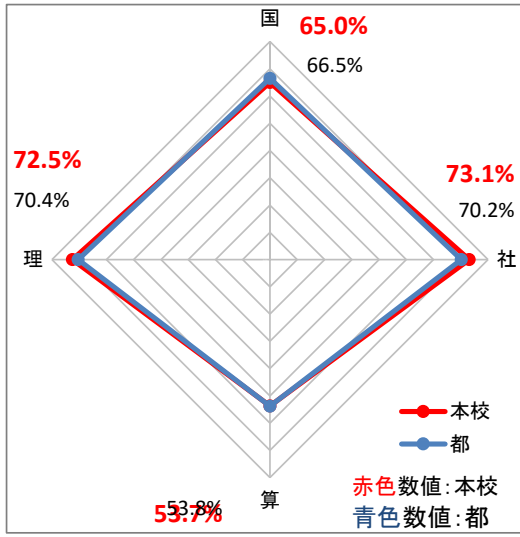
教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

国語	教科の観点					教科平均	読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能		必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	93.3%	81.7%	39.8%	74.6%	55.2%	65.9%	73.1%	69.3%	66.9%	69.8%	66.5%
本校	96.4%	81.6%	41.3%	76.8%	48.7%	64.2%	73.9%	69.6%	65.2%	69.6%	65.0%
都との差	3.1	-0.1	1.5	2.2	-6.5	-1.7	0.8	0.3	-1.7	-0.2	-1.5

社会	教科の観点				教科平均	読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的な事象についての知識・理解		必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	87.3%	72.6%	78.3%	62.0%	74.2%	72.0%	53.3%	52.9%	59.4%	70.2%
本校	89.1%	75.6%	80.0%	64.3%	76.5%	78.3%	54.3%	59.4%	64.0%	73.1%
都との差	1.8	3.0	1.7	2.3	2.3	6.3	1.0	6.5	4.6	2.9

算数	教科の観点				教科平均	読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解		必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	84.1%	40.7%	65.8%	54.6%	59.0%	53.5%	21.9%	21.1%	32.1%	53.8%
本校	86.2%	39.6%	66.3%	54.2%	59.1%	54.3%	19.6%	20.3%	31.4%	53.7%
都との差	2.1	-1.1	0.5	-0.4	0.1	0.8	-2.3	-0.8	-0.7	-0.1

理科	教科の観点				教科平均	読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解		必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	90.7%	61.8%	64.8%	79.1%	71.5%	72.2%	71.9%	59.1%	67.8%	70.4%
本校	95.7%	61.7%	58.5%	83.3%	72.0%	77.5%	81.9%	61.6%	73.7%	72.5%
都との差	5.0	-0.1	-6.3	4.2	0.5	5.3	10.0	2.5	5.9	2.1



《都との比較にみる本校の状況》

- ・国語
「A教科の観点」は東京都平均を下回っている。特に「言語についての知識・理解・技能」の項目において都平均を大きく下回っている。
- ・社会
「B読み解く力」は東京都平均を大きく上回っている。特に「必要な情報を正確に取り出す力」「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の項目において都平均を大きく上回っている。
- ・算数
「A教科の観点」「B読み解く力」共に東京都平均と同程度である。しかし、「数学的な考え方」「比較・関連付けて読み取る力」において都平均を下回っている。
- ・理科
「B読み解く力」は東京都平均を大きく上回っている。特に「比較・関連付けて読み取る力」の項目において都平均を大きく上回っている。しかし、「A観察・実験の技能」は都平均を大きく下回っている。

いずれの教科の調査においても「関心・意欲・態度」の項目において、東京都平均を上回っていることから、本校の児童は意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。しかし、「A教科の観点」「B読み解く力」の項目毎に見ていくと、結果に児童の得意・不得意が顕著に表れている。この結果を受けて、児童の苦手分野を丁寧に分析し、児童の実態に応じた授業改善計画を立てていく必要がある。

《授業改善のポイント》

- ・国語
辞書を活用した指導を日常的に実施し、語彙力の向上を図っている。新出漢字の習得に対しては意欲的ではあるが、定着までに至っていない。国語科に限らず、全教科の指導を通して、日常的に漢字や文章を書く活動を継続的に取り入れ、基礎力の定着を図る。
- ・算数
基礎・基本の確実な習得を図りつつ、基礎的な学習内容を活用する力を高めるために、習熟度に応じた課題解決型の授業を展開する。また、東京ベーシックドリルの実施や補習教室の計画的な実施により、個別の支援を充実させる。

学習規律や提出物、学習用具の準備等、学びに向かう姿勢に課題がある児童に対しては、児童の興味・関心を惹き付ける導入や発問の改善をさらに試み、前向きに学習に取り組むことができる授業に取り組む。

《家庭・地域への働きかけ》

日々の授業について学年だより等で保護者に伝え、児童の学習に対しての保護者の関心を高める。

地域の施設（区立図書館、子育て支援センター等）の情報を提供し保護者が児童に施設の利用を働きかけることができるようにしていく。

e-ライブラリアドバンス家庭学習サービスや東京ベーシックドリルについて周知を徹底し、家庭での活用を促していく。